

1. 活動の概要

6月9日(木)、出雲市立荒木小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。“「奈良の大仏」の巨大さと、ふるさとの歴史”と題して、実物大の大仏パネル作成を中心とした学習活動をおこないました。

まず大仏が作られた時代の歴史背景についてお話しし、島根県内の遺跡から出土した奈良時代の土器(須恵器)を観察して1300年前に思いをはせました。

そして体育館のフロアいっぱいに、みんなで協力しながら大仏パネルを作ります。この体験活動を通して、大仏の大きさを体で実感することができました。最後に完成した大仏を観察しながら、質問タイムです。「頭のぶつぶつはなに?」「大仏が立ったら何メートルあるの?」などなど、たくさんの質問が飛び出しました。

2. 活動の様子



「ふるさとの歴史について学習しましょう。」



「土器に何を入れていたのかな?」



「荒木小大仏をきれいにつくろう。」



「上から見ると、大きさを実感できるかな」

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・大仏のために日本各地から銅を集めたことに驚いた。
- ・1300年前の人は僕たちでは考えられない頭の使い方をしてやりとげたので、すごいなと思いました。
- ・奈良時代の人々が今の私たちよりも何百倍も努力していることに気がついた。
- ・奈良時代の食器にさわれたことが心に残った。
- ・銅鉱石からの銅の取り出し方を知りたい。

2) 担任の先生から…

- ・とても丁寧に対応していただき、打合せもしやすかった。
- ・わかりやすい学習内容だった。